

令和3年度 第2回全国健康保険協会静岡支部評議会議事録
(健康づくり事業推進部会)

開催日時：令和3年9月6日～令和3年9月17日

開催形態：書面による審議

出席者：【評議員】足立評議員、岡村評議員、永嶋評議員、藤本評議員、牧田評議員
森下評議員、森藤評議員、山田評議員、山本評議員

【委員】尾島委員、久保田委員、島村委員（五十音順）

- 議 事：1. 特定健診・特定保健指導等の取組状況
2. 令和3年度保健事業計画
3. 協会けんぽ静岡支部の加入者における疾病傾向分析
4. 就労世代の睡眠実態調査

○議事の経過

1. 特定健診・特定保健指導等の取組状況

〈評議員（委員）〉

・新型コロナウイルスの影響により厳しい環境で全国的に前年度実績が下がっている中、特に特定保健指導については実施率が増加しており、静岡支部として地道に様々な取組みを進めた成果だと感じる。

・特定保健指導実施率が初めて全国を上回ったことは、健康意識の向上の観点でとても良かった。健診後、保健指導を受けるまでの時間があるので、可能であれば、保健指導を望んだ理由や保健全般に係る要望について簡単なアンケートをとって、今後の取組みの参考としてはいかがか。

(事務局)

新型コロナウイルス感染症の影響下において、特定保健指導実施率の増加は全国的に見ても稀な例です。要因としては、特定保健指導実施にあたり、事業者様からご理解、ご協力を頂くことができたこと及び特定保健指導機関が感染症予防対策を万全に行いながら、特定保健指導を継続実施できたことなどが挙げられます。アンケートについては、LINE等を活用して実施を検討していきたいと考えます。

〈評議員（委員）〉

今後は、無関心層や医療機関での未治療者についてのインセンティブづくりが課題であり、被扶養者の特定健診に対する対策など、引き続き対応の検討が必要だと考える。

（事務局）

被扶養者の無関心層へのアプローチについては、ナッジを活用するなど無関心層の行動変容を促せるような新しい切り口で進めて行きたいと考えます。

〈評議員（委員）〉

SWOT 分析による現状分析がわかりやすかった。分析に対応する改善案については、目的と手段として効率的な関係にあるのか疑問に思えるものもある。

（事務局）

一部の事業において効率化が不十分である点については、ご指摘いただいた通りです。保健事業予算の最適活用のため、SWOT 分析などを活用して効率化を進めて行くと共に、新しい事業にも積極的にチャレンジしていきたいと考えます。

2. 令和3年度保健事業計画

〈評議員（委員）〉

- ・LINE や ICT を活用した新たな取組は意義があり、ドラッグストアでの保健指導やオプション測定付加の健診など、会場に足を向ける呼び水となるような仕掛けは有効だと感じる。

- ・継続して実施されている被扶養者へのオプション測定付加の健診は、受診率の向上にはつながると思うが、同じ健診を受ける被保険者への平等性が欠けていると感じる。

- ・静岡支部独自に実施している「健康相談」事業は、コロナ禍で受診控え・健診控えによる悪循環が生じないためにも有効なサービスであるため、さらに充実させてもらいたい。

（事務局）

一人でも多くの加入者に、健診を受けていただき、特定保健指導対象者へは、特定保健指導を実施して早期介入することで行動変容を促し、生活習慣病重症化予防につなげていきたいと考えます。

健康相談については、特定保健指導実施者向上効果に加えて、健診結果に関心がない（見ない）方への一次予防効果や、未治療の医療機関受診率向上効果もあると考えられるため、今後も継続して実施していきたいと考えます。

〈評議員（委員）〉

重症化予防（特に糖尿病性腎症）について、他の団体ではネットや動画により糖尿病性腎症による症状（身体への影響）を情報発信していた。受診勧奨以外にも、具体的にどのような害があるのか、センセーショナルでもよいから発信することも必要ではないか。

（事務局）

超高齢化社会において、糖尿病の重症化が、将来の医療費の高騰化や罹患者のQOL低下の原因となり得ることから、静岡支部においても重症化予防対策には特に力を入れて取り組みを進めています。今回ご提案頂きましたご意見については、重症化予防事業を進めて行く際の参考とさせていただきます。

3. 協会けんぽ静岡支部の加入者における疾病傾向分析

〈評議員（委員）〉

・地域の傾向がわかりやすく分析されていた。地域差別とならないような配慮は必要だが、健康に関心を持ってもらうよう広く情報発信して、事業所や加入者へ働きかけできれば良い。

・喫煙対策は本人の意識が最後の決め手であり、難しさを感じる。喫煙者を減らしていくために、マンネリでも啓発を続けていくことは大切である。

（事務局）

データヘルス計画に基づく経年的な地域分析により、地域毎で異なる健康課題が浮き彫りにされてきたため、今後はそれぞれの地域の健康課題に対して最適化した情報発信等を行っていきたいと考えます。

4. 就労世代の睡眠実態調査

〈評議員（委員）〉

・在宅勤務やストレス過多など、コロナ禍の就労形態の変化が健康に及ぼす影響は少なくないと思われる。睡眠の質に焦点を当てた分析は、働き盛り世代には関心のあるテーマであり、解決策がすぐ出るものではないが、身近なテーマを切り口にして発信していくことが重要だと感じる。

・睡眠の問題、またそのアプローチは働く人にとって重要かつ意義のあるものだと考える。

・アテネ不眠尺度を郵送で送付というのは、調査として適切か疑問である。本来、臨床心理士のような専門家の関与を前提にしているのではと感じた。

・分析結果を平易な語句を用いて幅広く広報する必要がある。

(事務局)

今後、事業所や加入者へ広報媒体を通して広く情報発信していくとともに、医療提供側へも情報発信することにより、調査結果を有効活用していきたいと考えます。